

This newspaper helps you to think about your tomorrow.

「モルゲン」はドイツ語で「明日」という意味です。

# MORGEN

2016  
**1**  
No.166



©Red Bull Content Pool

青春のころ

## 室屋 義秀 さん (パイロット)

むろや よしひで 1973年、奈良県出身。中央大学文学部卒業。93年、渡米し飛行機操縦ライセンスを取得。97年よりエアロパティックス飛行の本格訓練を開始。以後、自身のチームを率いて国内の航空ショーやレースに継続参加。2003年、航空文化啓蒙や青少年教育活動を推進するNPO法人ふくしま飛行協会を設立。09年よりレッドブル・エアレース・ワールドチャンピオンシップに参戦し、15年度成績は総合6位。また13年の世界曲技飛行選手権ではフリースタイル入賞を果たす。

新春企画

### なぜ今18歳選挙なのか 来たるべき参議院選挙とは何か

# が成功させた過疎再生

## 月尾 嘉男 (東京大学名誉教授・工学博士)



### 人口流入超過になつた過疎地域

四国を東西に横断する四国山脈の東部に、近畿以西では二位の標高一九九五メートルの名山として高い剣山があります。その北東の山麓に存在するのが今回の舞台の徳島県神山町です。徳島空港からバスで約一時間の山奥にあり、面積の八割以上が山地という日本の山村を象徴するような地域ですが、大分のカボスとともに日本を代表する酸味のある果実スタチの日本最大の産地としても有名です。

しかし、大半の山村と同様、過疎は急速に進行し、一九五五年には二万人以上であった人口は一九九二年には六〇〇〇人以下になってしまいました。ところが毎年一〇〇人以上が流出超過であった消滅可能都市の典型に、二〇一一年に異変が発生し、わずか二人ですが流入超過になったのです(図1)。それは自然でも偶然でもなく、何人かの町民の意外な努力の成果なのです。

### 日本最初のアダプト・プログラム

神山の名前が話題になったのは一九九八年のことで「アダプ



図2 大南信也さん

ト・プログラム」という活動を日本で最初に実施したときです。八〇年代にアメリカが不況になり、公共施設の維持補修が困難になり、高架道路の橋桁が落下するなどの事故が発生するほどになりました。高速道路の清掃ができないために苦情が殺到したテキサス州道路局は、一九八五年に沿道の住民に清掃を依頼するという苦肉の作戦を考案しました。

アダプトは養子にするという意味で、公共団体が誕生させた公共施設という子供を沿道住民が養子にして育成するという意味です。これはアメリカで急速に波及し、その看板をサンフランシスコ郊外で偶然目撃したのが神山発展の中心人物である大南信也さんです(図2)。早速、神山でも実行しようと、一九九八年に仲間と町内を通過する国道で清掃作業を開始したのですが、問題が発生しました。

清掃活動の看板を沿道に設置しようとしたところ、法律に抵触するという問題が発生したのです。そこで大南さんたちが強引に看板を設置したところ、その問題がマスメディアによって報道され、全国で神山の名前が話題になりました。その結果、営利目的でなければ設置可能となり、現在では日本国内で五万以上の「アダプト・プログラム」を実行する団体が登場するほど

### 国際交流の契機となった人形

の活動になりました(図3)。

このような活動をする仲間ができたのは、それより約八年前のことです。子供が通学している学校の廊下に陳列されている「平和の使者米国人形」と箱書きされた西洋人形を発見した大南さんが、その経緯を調査してみると、対日感情が悪化した一九二〇年代にアメリカの親日家宣教師が提唱して、日本に一万三〇〇〇体近い人形を寄贈した一体だということが判明し、これを里帰りさせようと発起したのです。

人形に同封してあったパスポートに記載された場所の市長に調査を依頼した結果、送付した女性の親戚がペンシルベニア州の都市に存命していることが判明しました。それではと三〇人の町民とともに訪問したところ、熱烈に歓迎され、地元新聞の一面に記事が掲載されるほどの行事になりました。その体験を基礎に一九九二年に「神山町国際交流協会」を設立し、国際交流を促進する活動が開始されたのです。

最初に実行したのが、前出の「アダプト・プログラム」と「神山アーティスト・イン・レジデンス」でした。後者はアーティスト

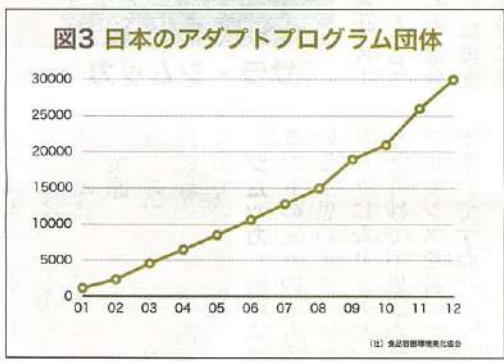


図4 作品「ヒドゥン・ライブラリー」

ストを町内に招聘し、現地で生活しながら芸術作品を制作してもらおうと、海外には多数存在しますが、国内にも札幌、青森、東京、横浜、金沢、浜松、城崎、山口など、各地で実施されています。しかし、神山の特徴は自分たちでアーティストの選考もするというところにあります。

神山も当初は専門の人間に選考を依頼しましたが、自分たちの意向が反映されないと気付き、数年で地域の選考委員が決定する方式に変更しました。基本は町民と交流し刺激してくれるアーティストであるかどうかですが、その趣旨に賛同するアーティストが殺到し、三人の採用に毎年一〇〇人程度の応募がある盛況になっています。これまでに五〇人以上のアーティストが参加し、三分の二近くは海外からです。

それらの作品は町内各地に点在しています(図4)が、他所のアーティスト・イン・レジデンスのように、作品を観光資源として集客に利用するというよりは、町民が異質の文化に接触する地域交流を重視するというのが大南さんなど主催者側の意向です。そのため、滞在するアーティストの希望には道路の接待文化が根付いている町民が熱心に対応するため、それも人気の源泉になっています。

## 第8回 鉄鋼スラグ製品と海と森 アートコンテスト

鉄鋼製造の過程で生産される副産物「鉄鋼スラグ」を原料とした製品が、陸に海にと様々なフィールドで活躍しています。もともとは路盤材などの産業資材として使われていましたが、近年は海藻やサンゴの再生に劇的な効果を発揮し、沿岸環境の改善に役立つエコ製品として注目を集めています。また、東日本大震災の被災地では、復興資材としてインフラ整備に利用されています。

鉄鋼スラグ協会では、そんな鉄鋼スラグ製品のことをより多くの皆様に認めていただくこと、そして鉄鋼スラグ製品にこめたメッセージをより広く伝えていくことを目的に、2008年より「鉄鋼スラグ製品と海と森」と題したアートコンテストを実施しています。第8回を迎えた今年も多くの皆様にこのコンテストを通じて美しい未来への想像を膨らませていただけたらと考えています。誰でも気軽にご参加いただけるコンテストです。まずは鉄鋼スラグ協会のウェブサイト (<http://www.slg.jp/>) で鉄鋼スラグ製品のことを少しだけ勉強してください。そのうえで海や山や川や森、そして私たちが暮らす町や都会を舞台に、たくさんの生命が輝き、共存している様子を表現してください。皆さまの力作をお待ちしています。

海と森と生命のつながりを表現してください。



作品の締切は  
2016年1月31日  
(当日消印有効)

**【応募要項】**  
 ■募集作品: 海や山や川や森、そして私たちが暮らす町や都会を舞台に、様々な生命が生き生きと輝き、共存している様子を表現してください。  
 ■応募方法: 絵画、イラスト、写真(プリント)のいずれかの方法で表現してください。絵画、イラスト作品の大きさはA3サイズに収まるもの。写真は四つ切りサイズ以内のプリントとします。応募に際しては、鉄鋼スラグ協会のウェブサイト (<http://www.slg.jp/>) のアートコンテストのページより応募用紙を印刷し、そこに必要事項を明記のうえ、作品とともに鉄鋼スラグ協会宛に郵送してください。郵送以外の応募方法はありせん。また、以下の各項に関してご了承の上ご応募ください。  
 \*応募作品の返却はいたしかねます。\*応募作品の著作権、使用権などの諸権利は鉄鋼スラグ協会に帰属するものとします。\*審査に関するお問い合わせにはお応えしかねます。  
 ■応募資格: 不問  
 ■賞: 大人の部(高校生以上)最優秀賞: 1点/賞金10万円  
 子供の部(中学生以下)最優秀賞: 1点/賞金5万円  
 優秀賞(大人、子供に関わらず): 6点/各3万円  
 団体賞(10点以上のご応募をいただいた学校や絵画教室などの団体が対象): 2団体/各3万円相当の図書カード  
 ■応募締切: 2016年1月31日(日)消印有効  
 ■発表: 2016年3月予定(鉄鋼スラグ協会のサイト上で発表します)  
 ■審査委員: 中村征夫(水中写真家)、鉄鋼スラグ協会調査広報委員会委員  
 ■応募先・お問い合わせ先: 鉄鋼スラグ協会 アートコンテスト「公募ガイド」係  
 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館5階  
 TEL.03-5643-6016 FAX.03-5643-6018  
<http://www.slg.jp/>



審査委員長 中村征夫さん